認定NPO法人フードバンク山梨

第14回定期総会

日時：2022 年 5 月25日（水）13:30～

会場：フードバンク山梨　ひまわり支所

認定NPO法人フードバンク山梨 第14回定期総会

次　第

1.　開会の言葉

2.　理事長挨拶

3.　議長選任

4.　書記及び議事録署名人の選出

5.　議案審議

第一号議案　2021年度事業活動報告・活動決算報告・監査報告

承認の件

6.報告事項

（1）2022度事業活動計画及び活動予算 報告の件

7.議長解任

8.閉会

2021年度を終えて
フードバンク山梨 理事長 米山けい子からのお礼

コロナ禍で生活困窮する方への緊急食料支援は、失業者・学生・子どものいる世帯およそ3、242 件の支援となりました。実施方法も学生自治会や地域フードバンクが自発的に取り組む事が増え、幅広い支援となりました。
行政と連携した食のセーフティーネット事業や乳幼児応援プロジェクト等を加えると 10、237件となりました。これはコロナ前と比べて 2.6 倍となっています。

利用者の多くは、コロナ禍で孤独や孤立を感じています。私達からの食料支援が**「親から贈り物が届いた時のようなとても温かい気持ちになりました」「また明日から頑張ろうと思えた贈り物でした」**など前向きな気持ちに繋がっています。
活動を応援して下さる多くの皆さんの「応援しています」というメッセージが利用者の心に伝わり心の支えとなっています。

12 月には子どものいる世帯へのコロナ禍の生活実態を知るために、アンケート調査を保護者と子どもに実施しました。その内容は、母子世帯が 77%、非正規雇用が 61%と高く、平日の日中以外の勤務では 5 人に1人が土曜と日祝日働いていることも分かりました。働けば何とかなるという自己責任論では解決できない、埋めることのできない貧困の格差になっています。

子どもたちの調査では、洋服や文房具・部活の用具等に加えて、経済的な理由で塾や習い事に行けない等、多くの物質的、経験的な剥奪があることが分かりました。そしてその事を子ども達は親や友人、教師にも誰にも言えず我慢しています。このような実態を踏まえ、本年度は更に食料・相談・学習支援を強めて行きます。相談支援は 1 人親家庭の保護者と子どもに、更に踏み込んだ集中的・総合的な支援を専門家の力を借りながら進め、生活の改善や子どもたちの自分らしい生き方を実現するキャリア教育を進めていきます。

SDGsでは「誰一人取り残さない」が原則にありますが、活動を通して日本の中にまだまだ取り残された方々が、多くいる事を痛感しています。その様な方々に、皆様と共に誰一人取り残さない社会づくりを目指して、力を尽くしていけることを願っております。
引き続き本年度もお力添えいただけますようお願い申し上げます。

第1号議案　2021年度 事業活動報告・活動決算報告・監査報告について

1. 食料支援を通して貧困をなくす活動

(1) 新型コロナウイルス感染拡大緊急食料支援活動の充実

新型コロナウイルス感染症により生活へ影響を受けた方々（失業者・大学生・留学生）延べ3、242世帯に、緊急食料支援を実施しました。新たに、24時間食品が受け取れる「つながるロッカープロジェクト」を新たに開始しました。

（ア）緊急食料支援実績

回数	対象	実施日	世帯数	備考
第1弾（手渡し）	失業者	5月29日	37	第5回つながるスマイルプロジェクト。協力団体「ふじざくら」と連携。
第2弾（手渡し）	大学生	7月29日	324	学生自治会主催で配布。（飯田キャンパス）
第3弾（手渡し）	留学生	9月14日	140	ユニタス日本語学校の留学生。
第4弾（手渡し）	大学生	9月21日	200	山梨大学独自の奨学金申請をした学生や留学生等。
第5弾（手渡し）	失業者	10月16日	95	第6回つながるスマイルプロジェクト地域フードバンク6団体と連携。
第6弾（宅配）	就学援助世帯	10月25日～29日	808	フードバンクこども支援プロジェクト利用者に追加支援。
第7弾（手渡し）	山梨県立大学	12月17日	300	学生自治会主催で配布。（飯田・池田キャンパス）
第8弾（宅配）	失業者	12月18日	242	第7回つながるスマイルプロジェクト地域フードバンク6団体と連携。
第9弾（手渡し）	留学生	1月19日	120	ユニタス日本語学校に食品を提供し教師が留学生に配布。

第10弾 （宅配）	就学援助世帯	1月20日～26日	820	フードバンクこども支援プロジェクト利用者に追加支援。
第11弾 （手渡し）	大学生	2月16日	132	山梨大学独自の奨学金申請をした学生や留学生等。
第12弾 （手渡し）	就学援助世帯	3月12日～13日	24	第1回つながるロッカープロジェクトの実施。24時間食品が受け取れる取り組みとしてロッカーを設置。
合計			3、242	

（イ） 第5回～第7回 つながるスマイルプロジェクト（失業者支援）について

新型コロナウイルスの影響により解雇や雇い止めなど、生活が困窮する方を支援するため、緊急的な食料支援「つながるスマイルプロジェクト」を6つの地域フードバンク団体と連携して実施し、延べ374世帯を支援しました。

※地域フードバンク団体については **「5. パートナーシップで目標を達成しよう」**を参照

手渡しで食品を配布する様子

お好きな時間を選んで受け取りが可能

(ウ) 大学生・留学生への緊急食料支援

山梨大学・県立大学・ユニタス日本語学校で、アルバイト収入等が減り、食費を節約している学生延べ1、216人を支援しました。日用品やアクセサリーなども合わせて配布し、大変喜ばれました。

ボランティアと食品配布の準備をしている様子

日用品等も配布

(エ) 就学援助世帯への緊急追加食料支援

フードバンクこども支援プロジェクトを利用する、延べ1、628世帯に２回の食料支援を実施しました。

(2)「食のセーフティーネット事業」(食料支援)

行政や社会福祉協議会と連携し、延べ4、132件、約39トンの食品を宅配しました。
また、緊急的に食料が必要な方のために、行政等を通して直接手渡しする緊急食料支援は、合計97回、総重量6、187kg(約6.2トン)実施しました。

(ア) 行政と連携し食を必要とする方への支援

1ヶ月に2回(第2・4週)最大3ヵ月間、食料支援を行ないました。発送した件数は合計4、132件、重量は39トン(39、254kg)となりました。

月	件数(箱)	重量(kg)
4月	348	3、306
5月	375	3、563
6月	373	3、544
7月	371	3、525
8月	346	3、287
9月	349	3、316
10月	346	3、287
11月	341	3、240
12月	339	3、221
1月	328	3、116
2月	306	2、907
3月	310	2、945
合計	4132	39、254

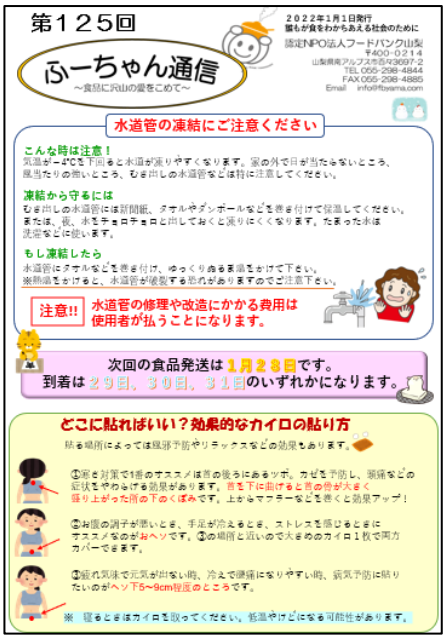
箱詰め作業

手作りのクリスマスカード(山梨学院短大作成)

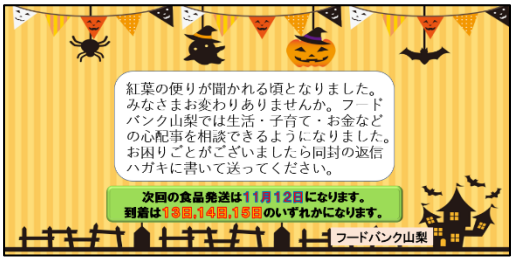
(イ) 心の交流

・「ふーちゃん通信」に四季折々の企画を掲載し、孤立感をやわらげ社会との絆が感じられるようにしました。コロナ禍の状況を踏まえて、手書きカードの作成を学生ボランティアに依頼し、次世代の活動参加や社会的課題への関心を高めました。

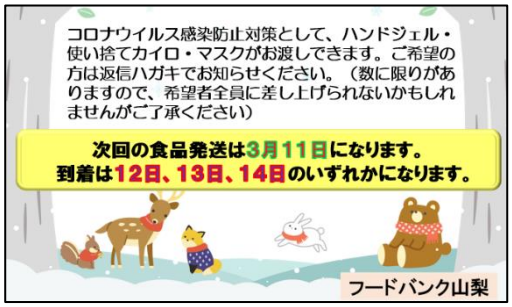
・ハガキや電話による心の交流や、公的支援の情報等を「ふーちゃん通信」で発信しました。



役立ち情報満載なふーちゃん通信



10 月のハロウィンデザインの手紙



日用品の希望を伺う手紙

（ウ）小笠原倉庫（南アルプス市小笠原477−6）寄贈品の保管と食品発送作業場所として活用しました。

（エ）緊急食料支援の実施

11市町（南アルプス市・中央市・笛吹市・山梨市・都留市・北杜市・上野原市・昭和町・市川三郷町・身延町・富士川町）と当法人独自の支援で合計97回、総重量6、187kg（約6.2 トン）実施しました。

（オ）情報の管理

個人情報や支援経過を個別ファイルで厳正に記録・保管し、必要な場合は自立相談窓口と連携しました。

（3）生活困窮者自立支援事業における相談支援

（ア）相談支援

ふーちゃん相談室を設置し、食のセーフティネット事業利用者、各市の自立支援相談窓口の依頼、返信はがきや新規利用者の現状記入欄等や、必要な世帯への電話相談や、アウトリーチを実施しました。

（イ）個別ファイルによる情報管理

ハガキや訪問相談支援で得た情報を自立相談支援窓口と共有しました。

5市相談支援事業実績

	延べ支援件数	支援内容						
		電話・メール相談	支援機関との打ち合わせ	利用者宅訪問相談	手紙・通信の発送・受信	食糧支援（緊急支援含む）	その他（来所相談・同行支援・郵便相談）	合計
4月	552	0	47	0	264	240	1	552
5月	620	0	32	0	299	287	2	620
6月	908	2	51	0	436	419	0	908
7月	1306	4	37	0	632	631	2	1306
8月	1324	0	50	1	653	618	2	1324
9月	567	20	49	1	254	243	0	567
10月	1352	42	49	1	626	634	0	1352
11月	723	53	39	3	329	299	0	723
12月	1476	131	55	6	644	640	0	1476
R4年1月	1435	117	47	4	644	622	1	1435
2月	515	29	49	4	214	216	3	515
3月	501	65	13	1	210	210	2	501
計	11279	463	518	21	5205	5059	13	11279

（4）フードバンクこども支援プロジェクト

長期休暇の子どもの欠食を防止し、健やかな成長をサポートする「フードバンクこども支援プロジェクト」では、コロナ禍の緊急食料支援を除く、延べ2,259世帯（子ども延べ4,507人）で、小林製薬株式会社と「青い鳥こども支援プロジェクト」を推進しました。

（ア）行政機関との連携

11市町（南アルプス市・中央市・笛吹市・山梨市・都留市・北杜市・大月市・上野原市・昭和町・身延町・山中湖村）と連携しました。

（イ）支援対象

・申請世帯は、準要保護世帯（就学援助などを受給している世帯）でした。

・夏のフードバンクこども支援プロジェクトについて

798世帯に支援しました。多くの企業から食品寄付があった。特に企業からお米・麦茶750袋の寄贈があり、充実した内容になりました。

2021年 夏 フードバンクこども支援プロジェクト	
支援世帯数	794世帯
18才以下の子どもの人数	1599人
母子世帯数割合	643世帯（全体の80%）
連携学校数	114校
学校からの申請世帯	619世帯（全体の77%）

お菓子などが沢山入った箱

箱詰め作業

・冬のフードバンクこども支援プロジェクトついて

816 世帯に支援しました。また、子どもたちにクリスマスプレゼントとしてクラウドファンディングで集めて購入したこども券（子ども一人につき1000円分）をお送りしました。過去最高の利用者数となりました。

2021年 冬 フードバンクこども支援プロジェクト	
支援世帯数	816世帯
18才以下の子どもの人数	1607人
母子世帯数割合	660世帯（全体の80%）
連携学校数	114校
学校からの申請件数	618世帯（全体の75%）

サンタになりきって箱詰め作業

こども商品券・クリスマスカード・ネックレスも同封

（ウ）小中学校との連携強化及び推進

教育委員会を通して120校の小中学校との連携と強化を目指していましたが、今年は114校との連携にとどまりました。

（エ）楽しい経験の機会創出

山梨学院短期大学学友会主催で、健康な体づくりのための調理実習を開催し、フードバンク山梨の利用者 10 名が参加しました。

（オ）新しいデータ管理の仕組みづくり

グーグルフォームで、申請者情報を受け取り、管理する仕組みを構築しました。
連携する行政と話し合いの上で、2022 年の夏の運用を目指します。

利用者の声（一部抜粋）

・コロナで失業してしまってから、再就職が決まらず、生活が苦しく、精神的にも辛い日々を過ごしています。そんな中での支援は、本当にありがたく、特にお米は高いので助かっています。沢山の人に助けられて生きているという事に感謝をしなければいけないと感じています。

・コロナ禍で収入も減り、この夏休みは食費もかかり大変ですが、とても助けられています。3人の食べ盛りの子ども達も声を揃えて「本当にありがたいね。」と言っていました。届いた食品で、いろいろと考えながら食事を作っています。本当に皆様には感謝の言葉しかありません。

・箱いっぱいに詰められた食品やお菓子に涙してしまいました。このコロナ禍で私が倒れてしまえば子どもはどうする、という不安もあります。あたたかなメッセージとやさしさが詰まったご支援に感謝しかありません。本当にありがとうございます。

（5）乳幼児応援プロジェクト

乳幼児のいる世帯に年2回ミルク・おむつ・食品を無償で配布し、延べ340世帯への支援となりました。

（ア）支援対象世帯

未就学児のいる世帯で①児童扶養手当を受給している②フードバンクこども支援プロジェクトを利用している未就学児のいる世帯を対象としました。

・2021 年度1回目（春）の乳幼児プロジェクトでは、144世帯にオムツやミルクを含む食品箱を発送または手渡しました。

春の乳幼児応援プロジェクト	
日付	5月21日～22日
支援世帯数	144世帯
総世帯人数	540人
18 歳以下の子の人数	344人

ドライブスルー方式で荷物をお渡し

お菓子やカップ麺に手紙を添えた

2021 年度2回目（秋）の乳幼児応援プロジェクトでは 196 世帯が利用し、今年 5 月に比べ 52件増で過去最高となりました。化粧品やネックレス等も配布しました。

秋の乳幼児応援プロジェクト	
日付	11月 20 日～21日
支援世帯数	196世帯
総世帯人数	712人
18 歳以下の子の人数	421人

お米・お菓子・日用品・ミルク・オムツ等

日用品を手渡しする様子

（イ）情報の提供

子どもの健やかな成長を助けるために利用できる公的制度等の情報を提供しました。

・リサイクル制服販売のお知らせ
・WACCA（母子世帯などの相互扶助システム）のお知らせ
・弁護士会主催の無料弁護士相談会のお知らせ
・ふーちゃん相談室へのお誘い　　等

（6）新たな相談支援事業の展開（ふーちゃん相談室の開設）

4 月から 6 月までの 3 月間の試行を経て、同年 7 月から、新たなかたちで相談支援事業を再開しました。ちょうど相談事業の再開時期が新型コロナ感染症の拡大と重なっていたため、仕事を失ったり、給料が減ったり、自宅待機を余儀なくされたり、あるいは家賃が支払えない、子どもに食べさせるものが無いなど、深刻な相談が数多く寄せられました。不安定

な社会情勢の中で、相談員は利用者の皆さんと力を合わせ、各種の給付金や貸付金、時には生活保護の申請など、生活環境を立て直すための様々な活動を行って来ました。

これらの問題解決型の相談によって、生活上の危機がある程度和らいだ後は、利用者さんが、これからどのように自己実現を図っていくか、どのように生きがいを創造していくかなど、利用者さんに寄り添った伴走型の相談を行ってきました。また、生活基盤を立て直すための相談と併せて、利用者さん本人やご家族のメンタル不調、配偶者間暴力（DV）、子どもの虐待、不登校、労働災害、不当解雇、在住外国人への差別など様々な相談をお受けし、時には利用者さんとともに社会や学校、行政などに対して権利の主張や代弁を行ってまいりました。

来年度の相談事業は、公認心理師/臨床心理士で、社会福祉主事の任用資格を持つ主任相談員を中心に、3名体制で行ってまいります。また、新年度は、子どもの夢や将来の希望を後押しする相談活動に力を入れてまいります。

チラシを食料支援利用者に配布

（7）子どもの学習・生活支援教室「えんぴつひろば」

中央市で学習支援を実施し、貧困世帯の子どもたちが安心して学び、楽しく過ごせる場を提供しました。保護者とも連絡を取り合い、個々の子どもに対応した学習プログラムと相談支援を行いました。新型コロナウイルス感染症防止策を徹底して実施しましたが、8～9 月の数回と分散登校実施時の 2～3 月は中止になりました。
4月～5月　2　回目までは自主事業、その後福祉課からの委託を受けて実施しました。年間実施回数は33回、子ども延べ415人、ボランティア延べ231人が参加しました。

(ア)中央市で毎週土曜日午前に学習支援を行いました。中央市福祉課を通じて申し込みのあった子どもを中心に、継続して通っている子どもが参加しました。
(イ)個人対応型支援を実践し、学力強化や生活支援を行いました。また有効な支援ができるよう、ボランティアのマッチングを工夫しました。発達に問題がある子どもへは、専任者の

マンツーマン指導を行いました。

（ウ）子どもや保護者へのヒアリングを適宜、スタッフ、ボランティアで行いました。子どもからは進路や家族、学校などに対する悩みを聞きました。保護者とは子どもの問題点を共有して支援に生かすとともに、必要に応じて食品の提供や子育てアドバイスを行いました。

（エ）失われた機会の創出としてのイベントは実施できませんでしたが、短時間でのハロウィン、クリスマス会を実施しました。

（オ）全員を対象としたアンケート、振り返りプリントは実施できませんでした。

（カ）キャリア教育は実施できませんでしたが、高校受験生に対しては進路相談を行い、受験勉強に特化した学習支援を行いました。受験生3名は希望の高校に入学することができました。

（キ）講師ボランティアは一般の方を中心に、ロールモデルとなる大学生と高校生を積極的にお願いし、幅広い方々にご協力いただきました。

（ク）その他、荷物の搬入出・パンの受け取り、通訳等のボランティアにもご協力いただきました。

（ケ）ボランティア同士の交流・研修の場を設けることができませんでしたが、子どもに関する簡易の意見交換会を数回行いました。また必要に応じて、個別に打ち合わせを行いました。

（コ）新型コロナウイルス感染症予防のため、食堂による昼食提供は実施しませんでした。昼食として食べられる食品、製パン会社からのパン、継続支援者からの果物・手作り菓子のご寄付をお土産として渡しました。

フードバンクキッチンの開催

（ア）　新型コロナウイルス感染症予防のため、開催を見合わせました。

（イ）　昼食用に簡単に食べられる食品を用意し、製パン会社からのパン、個人からの継続的な果物のご寄付とともにお土産として渡しました。

「えんぴつひろば」の様子

ハロウィンお楽しみ会の様子

子どもの学習・居場所支援教室「ももっ子クラブ」

南アルプス市で学習・居場所支援を実施し、貧困世帯の子どもたちが安心して学び、楽しく過ごせる場を提供しました。保護者とも連絡を取り、子どもの特性や実態に応じた支援を行いました。新型コロナウイルスの蔓延防止措置が出された９月の数回との１月～2月は中止になりました。2021年７月から活動を始め、年間実施回数は25回、子ども延べ100人、ボランティア延べ123人が参加しました。

（ア）南アルプス市で毎週土曜日午後に学習・居場所支援を行いました。フードバンク山梨から食料支援を受けている家庭の中で申し込みのあった子どもが参加しました。
（イ）個別に学習支援を行い、学習意欲の回復や学習習慣の定着の支援を行いました。また、有効な支援ができるよう、ボランティアとの信頼関係の構築を重要視しました。発達に問題がある子どもに対しては、情報共有を徹底し、効果的な支援を実施しました。
（ウ）子どもや保護者へのヒアリングを適宜行い、子どもからは進路や家族、学校などに関する悩みを聞きました。保護者とは子どもの課題や特性を共有し、適切な支援に役立てました。
（エ）体験活動の機会の創出として、ハロウィンやクリスマスにはイベント、その他、野外遊びやプログラミング体験教室等を実施しました。
（オ）直接的なキャリア教育は実施できませんでしたが、高校受験生に対しては進路相談を実施して、受験対策を行いました。受験生2名は希望の高校・高専に入学することができました。
（カ）講師ボランティアは一般の方を中心に、子どもたちと年齢の近い大学生と高校生を積極的にお願いし、幅広い方々にご協力いただきました。
（7）その他、荷物の搬入出・パンの受け取り等のボランティアにもご協力いただきました。
（8）ボランティア同士の交流を毎活動終了後に設け、子どもに関する意見交換や情報交換を行いました。
（9）昼食として食べられる食品や、製パン会社からのパン、おやつ等のご寄付をお土産として毎活動終了後に渡しました。

子どもに 勉強を教える様子

一緒にゲームをする様子

2. 食品ロス削減と食品管理

「食品ロス削減推進法」の施行を受け、国民運動として企業・団体からの余剰食品の寄贈受入を推進し、多くの防災品や食品を受け入れました。

(1)食品の収集とフードドライブの定期開催

コロナ禍における企業・団体からの余剰食品の寄贈と市民からの寄贈が増え期首在庫量 7 トンを加え、年間取り扱い量は 184 トンとなり、次期繰越量は、 43トンになりました。

（ア）食品の収集・配布

年間150トンの受け入れ目標に対し、177 トンとなりました。

寄贈ルート	寄贈量(kg)
フードドライブ お米	36、918
フードドライブ 一般食品	31、505
スクールフードドライブ	4、991
フードドライブ 強化月間	5、385
きずなBOX Aコープ2店舗	1、289
きずなBOX いちやまマート14 店舗	11、389
企業・団体	81、445
株式会社サンキムラヤ寄贈	4、286
合計	177、081

・パレット単位の大口寄贈受け入れ

食品製造企業からの過剰生産品の受け入れを行いました。また、行政や県内企業からの新規寄贈がありました。

（イ）フードドライブ

・フードドライブの取り組みを推進し、年 2 回フードドライブ強化月間(夏・冬)を設け、広報のために、スーパーでチラシを配布しました。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一時事務所での食品受け入れを一時停止しました。

・職場単位で従業員が取り組めるように、チラシ配布やボックス貸し出し等のサポートをしました。

・PTAや生徒が主体的に行なう「スクールフードドライブ」では、年間を通し 51 校・園の参加がありました。(夏 30・冬 21 校・園)

スクールフードドライブの持ち込み

学生から食品を手渡しで受領

（ウ）きずなBOX

2社16 店舗での設置を継続し、12、697kg の寄贈がありました。

（エ）パンの寄贈

製パン会社から継続的に 8 施設へ寄贈がありました。乳幼児応援プロジェクトでは、

利用者に手渡しました。

（オ）日用雑貨

家庭からの寄贈ではマスクやおむつなどが多く、企業からは、パレット単位では生理用品やカイロ等の日用品を受け入れました。

1.5トンの生理用品

企業寄付カイロ

（2）県内企業からの受け入れ促進

食品製造企業からの過剰生産品を受け入れました。新規寄贈企業の開拓は行えませんでしたが、HP 等を見てくださった県内企業団体様からの寄贈を受け入れました。また、日用品も同様に受け入れました。

新規企業からの梅干しの寄贈

アクセサリーの寄贈

一般企業・自治体・医療機関等からの防災品を受け入れました。それぞれ防災品入れ替えの時期などで寄贈がありました。

防災品の寄贈

調理が必要ない防災パン

（3）全国フードバンク推進協議会との連携

全国フードバンク推進協議会と連携し、大手企業からの食品寄贈を促進しました。
また、食品だけでなく日用品なども積極的に受け入れました。

カップ麺

ジュースやコーヒー等の飲料

年間の食品配布量は、141トンでした。

配布ルート	配布量(Kg)
食のセーフティーネット事業	39,254
フードバンクこども支援プロジェクト	47,032
乳幼児応援プロジェクト	4,662
緊急食料支援	6,187
施設配布	27,406
コロナ禍緊急食料支援	12,856
株式会社サンキムラヤ寄贈	4,286
合計	141,683

（4）倉庫管理と整理整頓

（ア）倉庫管理

常時20トン以上の食品を保管し、災害発生等非常時の対応に備えました。食品が少なく物品が多い、また食品・米や物品でスペースがないなどありましたが、その月ごとにスペースの確保、食品管理に努め食品・物品の入荷に備えました。

（イ）管理基準

農林水産省「フードバンク活動における食品の取り扱い等に関する手引き」に沿った管理に努めました。

（ウ）整理整頓

・整理手順を継続し、清潔な状態を維持しました。人が多く行き来する場所はゴミやほこりが溜まりやすいため、気づいた時に清掃することも心がけました。

・倉庫に搬入しきれない食品や日用品は中央市ひまわり支所・有野事所に保管しました。また、新・フードバンクセンター建設に伴い、新たに棚や冷蔵庫を倉庫に搬入します。

・食品を無駄なく活用するため、期限チェックでの至急使用食品カゴの配置や期限の迫った食品を確実に使用するために、倉庫担当で食品位置を共有し、保管期間の可視化・定位置での保管に努めました。

（5）施設への食品配布

確約書締結施設に対し、電話や施設配布時等にてヒアリングを行い、ニーズに合った食品を提供しました。また、これまでは施設との食品のマッチングのために FAX を利用していましたが作業を手間なく、よりスムーズに行うため、スプレットシートとラインの法人アカウントを作成し業務の効率化を図りました。

施設に食品を手渡す様子

喜びの声があった

ヒアリング内容
・多くの施設・団体からお菓子や飲料の寄贈を望む声がありました。
・給食などを行っている施設・団体からは調味料を望む声や、カップ麺等簡単に食べられる食品が喜ばれるという声がありました。

3. 寄付活動・広報・助成金等の申請

2022 年度建設予定の倉庫建設への寄付活動を開始しました。活動への寄付は、コロナ禍で生活困窮する方々への寄付が増加し目標を達成することができました。

（1）寄付活動の充実

（ア）個人・企業への寄付・入会の呼びかけを強化しました。

企業に建設寄付依頼の手紙を送り、電話でアポイントをとり、会社を訪問しました。

・1 月 19 日　富士急行株式会社（代表取締役社長、御礼・寄付・県人会紹介）
・2 月　7 日　山梨大学（副学長、学生への食料支援・寄付）
・2 月 21 日　株式会社はくばく（代表取締役社長、御礼・寄付・寄贈）
・2 月 22 日　株式会社山梨中央銀行（頭取、御礼・県内団体の紹介）

（イ）遺贈・相続財産寄付に関する WEB ページの変更は行いませんでした。

（ウ）ファンドレイジングの研修を受講しました。

・2 月 10 日　JANPIA　ファンドレイジング基礎講座を受講しました。
・3 月　9 日　PR TIMES　初回利用勉強会を受講し、効果的なプレスリリース作成を学びました。

（2）広報活動による認知度向上・メディア、Facebook、HP の充実

（ア）以下の多様なツールを活用し情報発信を強めました。

・ホームページ、ランディングページ（グーグルでの無料広告）
・フェイスブック・ツイッター・インスタグラム等のSNS
・クラウドファンディングサイト
・YouTube
・メールマガジン
・アットプレスでのプレスリリーストライアル 等

（イ）イベントの開催に関して積極的にニュースリリースを行い、延べ 27 社で報道されました。

日時	放送局	内容
2021/4/7	FM 富士	フードバンク活動と SDGsの取り組み
2021/4/9	テレビ山梨（UTY）	ほうとう協会フードバンク山梨に寄付
2021/4/28	NHK 甲府	山梨県防災士会防災品を寄付
2021/5/8	北杜市 CATV	北杜市との子どもの連携協定貧困対策協定提携
2021/05/13	NHK 甲府	年賀寄付金贈呈式
2021/05/13	テレビ山梨（UTY）	年賀寄付金贈呈式
2021/05/13	山梨テレビ（YBS）	年賀寄付金贈呈式
2021/05/24	峡西 CATV	年賀寄付金贈呈式
2021/05/21	テレビ山梨（UTY）	乳幼児応援プロジェクト
2021/06/08	テレビ山梨（UTY）	フードドライブスタートイベント
2021/06/08	山梨テレビ（YBS）	フードドライブスタートイベント
2021/07/02	テレビ山梨（UTY）	山梨ユニフォーム株式会社
2021/07/03	ラジオ	ももっこクラブ開校式
2021/07/20	山梨テレビ（YBS）	JA 共済連贈呈式
2021/07/28	テレビ山梨（UTY）	JA 共済連贈呈式
2021/07/28	峡西 CATV	フードバンクこども支援プロジェクトイベント
2021/08/11	NHK 甲府	記者発表：乳幼児のいる困窮世帯へのアンケート結果報告、山梨フードバンク・ネットワークについて
2021/08/11	山梨テレビ（YBS）	記者発表：乳幼児のいる困窮世帯へのアンケート結果報告、山梨フードバンク・ネットワークについて
2021/08/11	テレビ山梨（UTY）	記者発表：乳幼児のいる困窮世帯へのアンケート結果報告、山梨フードバンク・ネットワークについて
2021/09/15	テレビ山梨（UTY）	県議会議長要望書提出
2021/09/15	テレビ山梨（UTY）	株式会社 NTT 東日本山梨支店 缶詰 2070 個寄贈
2021/09/16	テレビ山梨（UTY）	株式会社クロスフォー贈呈式
2021/09/29	テレビ山梨（UTY）	山梨フードバンク・ネットワーク設立、センター建設の説明会
日時	**放送局**	**内容**
2021/09/30	NHK 甲府	山梨フードバンク・ネットワーク設立、センター建設の説

		明会
2021/10/25	テレビ山梨（UTY）	フードバンクこども支援プロジェクトスタート
2021/10/15	峡西 CATV	フードバンクこども支援プロジェクトスタート
2021/10/29	山梨テレビ（YBS）	選挙に関する放映
2022/02/18	山梨テレビ（YBS）	センター建設説明会
2022/03/15	山梨テレビ（YBS）	ロッカープロジェクト

（3）助成金・補助金等の積極的アプローチ

助成金・補助金を積極的に申請し、活動資金の拡大を図りました。

助成元・ 募集事業名称	事業名・内容
公益財団法人パブリックリソース財団 中核的フードバンクによる地域包括支援体制事業	山梨県下における包括的なフードバンク支援体制構築事業
日本郵便株式会社 2021 年度年賀寄付金配分事業	自治体・学校と連携しコロナ禍で困窮する子ども・乳幼児がいる世帯に食料支援する事業
農林水産省 令和3年度フードバンク支援緊急対策事業	令和3年度1年間の小笠原倉庫賃料
山梨県 令和 3 年度やまなし子どもの貧困対策広域的活動拠点設備整備等事業費補助金	食料支援倉庫と情報管理の設備整備事業
公益財団法人パブリックリソース財団 2020 年度高山弘子基金	貧困世帯に食料を、乳幼児にミルクとオムツを届けたい
一般財団法人山梨福祉財団 令和3年度助成金	電動昇降式ハンドリフター購入

その他

・メルカリ寄付サーキュラー・エコノミー団体

・公益財団法人パブリックリソース財団 GIVE ONE 優活プロジェクト事業（株主優待券）

・京都府 国産農林水産物等販路多様化緊急対策事業
（酒米470kg ）

・農林水産省 学校等・食事提供団体・食材提供団体における政府備蓄米交付
（精米 600kg）

・一般社団法人全国フードバンク推進協議会 ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業
（食品、断熱 BOX）

不採択

・社会福祉法人中央共同募金会 第3回赤い羽根フードバンク活動等応援助成

・SMBC グループライジング基金 2021 年度寄付先募集

（4）講演会・視察の強化

（ア）Zoom を使ったオンラインでの講師依頼が 4 件、会場が 6 件ありました。会場に出向く

場合は、感染防止策をとりました。

日付	団体名・会議名	参加人数
5/26	農政ジャーナリストの会・研究会（Zoom）	50
7/27	山梨経営実践研究会・定例会	20
8/25	都留組寺族女性の会・定例会	15
11/10	山梨県議会 ・「子ども条例案作成について」意見交換会	—
11/21	富士山からサステナブル &SDGs を発信する会・第五回 SDGs 学びと実践の会	80
12/9	一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク・令和 3 年度 生活困窮者自立支援制度における関東・甲信越ブロック研修（Zoom）	300
12/16	いしかわフードバンク・ネット・フードバンクフォーラム	100
2/8	甲府商工会議所水晶宝飾部会・2 月度議員・評議員合同懇親会	23
2/22	NPO法人大学コンソーシアムやまなし・令和 3 年度成果発表会 審査員	50
2/25	消費者庁・第5回食品ロス削減推進会議	—
3/9	参議院自由民主党・不安に寄り添う政治のあり方勉強会	
3/10	内閣府・子供の未来応援フォーラム（神奈川県の Zoom 会場）	多数

（イ）コロナ禍の影響で団体の視察・研修が減少し、1 件でした。

10/26	山梨県・新任職員研修第5回	49

【執筆・インタビュー】11 件ありました。

日付	団体名・誌名
2/17	（株）三輪書店・「作業療法ジャーナル」
4/6	山梨県生涯学習推進センター・「生涯学習やまなし」
6/22	全国社会福祉協議会 民生部・『民生委員・児童委員のひろば』7 月号
7/9	アトリエ・レクラム・『月刊自治研』8月号
8/2	中央文化社・「月刊地方議会人」2021 年8月号
8/6	一般社団法人中部産業連盟・幸書房「Let's SDGs 広げよう新しい食のコンセプト」（Zoom インタビュー）
8/6	株式会社ダブルウイング・理事長写真を教材書籍で使用
8/19	株式会社 TBS グロウディア・ラジオ『森本毅郎 スタンバイ!』電話取材
9/16	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（Zoom インタビュー）
10/21	（株）CCC メディアハウス・JICA MAGAZINE 12 月号
12/1	日本体育大学体育学部 三瓶准教授（ひまわり支所にてインタビュー）

4. パートナーシップで目標を達成しよう

９月に「山梨フードバンク・ネットワーク」を設立し、15 団体が参加しました。6 団体が地域フードバンクとして活動しています。年間を通してコロナ禍で生活が苦しくなる大学生・留学生延べ 1,216 人への支援をおこないました。

パブリックリソース財団の助成事業「山梨県下における包括的なフードバンク支援体制構築事業」が採択され、山梨フードバンク・ネットワークの構築、新山梨フードバンクセンター建設と地域フードバンクの育成を行っています。

（1）ボランティア参加の促進

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1 回の受け入れ人数を最大 10 人前後とし、検温・マスク着用・手洗いを徹底しました。コロナ禍であるにも関わらず、多くのボランティアの方が作業に参加しました。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
活動時間	14	14	17	12	14	9	12	9	11	11	7	9	139
延人数	74	52	76	149	74	74	115	77	114	102	72	92	1,071
延活動時間	181	164	207	314	194	145	228	155	270	216	142	200	2,387

・コロナ禍の状況を踏まえ、ボランティア参加の告知などは行いませんでしたが、多くの問い合わせがありボランティアに参加してくださる方が増えました。一度来ていただいた方が、次回以降もレギュラーで参加してくださる傾向にあり、皆さん、一人ひとりが、やりがいを感じていただいています。

・企業・行政・高等学校からのボランティア受け入れ
県内高等学校・企業や行政から、計 49 件のボランティア参加があり、月 2 回の箱詰めや KSP、賞味期限チェックを行いました。

高校生が箱詰めを行った

サンタになりきって箱詰め

(2) 山梨フードバンク・ネットワークの構築

各地域でフードバンク活動を行う(地域フードバンク)を募るため、「地域の生活困窮者を支援するための」説明会を開催しました。中核的フードバンクとして活動を希望する団体や、これまでの活動の拡大、何かできることをしたい企業などが参加しました。

9月29日には、19 団体が参加して「山梨フードバンク・ネットワーク」設立の記者発表を行い、ネットワークがスタートしました。

8/ 4	「地域の生活困窮者を支援するための」説明会
8/11	記者会見:「乳幼児応援プロジェクト」調査報告
9/29	記者会見:ネットワーク設立とセンター建設に向けた説明会

「フードバンク山梨、コロナ困窮深刻化で…
全県規模で支援取り組み

食料支援へ連携網
フードバンク 地域に整備
山梨日日新聞

5. 新山梨フードバンクセンター建設

建設プロジェクトを立上げ、建設寄付を募りました。専用口座とクラウドファンディングの建設の為の寄付活動を始めました。建設地は20年長期賃貸契約で確保し、2022 年5月着工、10月末に竣工予定です。

建設候補地

市民や企業から多くの移転先の情報提供を頂きましたが、多くの食品を保管するために適した倉庫がありませんでした。支援を安定的に継続するためにも、食品を安全に保管し発送する拠点の整備が急務となり、食品の保管や作業スペースを確保した倉庫の建設を決意しました。

2021/4	飯野倉庫撤去、小笠原倉庫稼働
	建設業者選定のため合い見積もり(4社)
9/1~	測量・開発・事前協議
2022/2	土地の20年間長期賃貸契約(南アルプス市徳永)
2/8	工事請負契約(株式会社内藤ハウス)、本申請
2/18	新山梨フードバンクセンター建設のための説明会(Zoom)
2/18	クラウドファンディングスタート(GoodMorning)
3/1~	隣地境界擁壁変更申請、再申請

*5月 造成工事、7月~10月 本体工事、10月後半 完了検査の予定

（1）中核的フードバンクの役割を担う

（ア）県内各地での食品拠点として、地域フードバンクが6団体で活動を始めました。当法人は中核的フードバンクの役割を担い、各団体への秤と台車の提供、助成金情報のお知らせやノウハウ支援を行いました。

地域フードバンク団体：6団体

NPO 法人こどもサポート山梨（甲府市）	NPO 法人ぐんないや（都留市）
地域総合子ども家庭支援センター・テラ（甲府市）	NPO 法人富士の緑とフードサポート（富士吉田市）
にららん♪食堂（韮崎市）	協力団体ふじざくら（河口湖町）

＊つる食堂会場の耕雲院が法人格を取得し、「NPO 法人ぐんないや」に名称変更しました。
＊「よりそい北杜」（北杜市）が新規参加予定です。

地域フードバンク会場での食料支援を 2 回行いました。

手渡し日	会場数	合計　支援世帯数
10 月 19 日	4	95 世帯
12 月 18 日	6	242 世帯

その後、独自に支援を企画する団体もあり、チラシ作成や行政他機関との連携、フードドライブの方法等のノウハウを提供共有しました。

月日	地域フードバンク名	支援世帯数
1 月 21 日	NPO 法人富士の緑とフードサポート	44世帯
2 月 1 日	協力団体ふじざくら	20 世帯
2 月 2 日	NPO 法人こどもサポート山梨（緊急支援）	6 世帯
2 月 28 日	NPO 法人ぐんないや （つるギフト）	100 人
3 月 18 日	協力団体ふじざくら	23 世帯
3 月 26 日	NPO 法人富士の緑とフードサポート	68世帯

（イ）株式会社 YSK e-com に発注し、新センターでの効率的な食品管理システムを導入し、テスト運用しました。

・「支援者・寄贈品の受付改善」では、入力画面（一覧、支援者・寄付品情報・重量入力）を作成し、Salesforce と連携（データ作成機能開発、連携確認）しました。

・「当事者からの食品配送申請の受付」では、新たに Web 画面を作成し Salesforce に連携（リード項目作成、連携確認）させました。

6.自治体への提案・アンケート調査

新たに北杜市と「子どもの貧困対策連携協定」を締結しました。

山梨県議会においては、議長へ要望書を提出、子ども条例のための策定委員会で提言を行いました。

大学生団体の協力を得て、初めて保護者と子ども双方へのアンケート調査を実施することができました。

（1）県内自治体との連携促進

（ア）山梨県議会議長へ要望書を提出し、フードバンク活動への支援をお願いしました。また、山梨県防災局防災危機管理課課長と面会し、災害時の協定締結について協議しました。県議会がフードドライブを行い、他の 2 団体と共に食品の寄贈を受けました。

北杜市との連携協定締結

山梨県議会にてフードドライブの贈呈式

(2) 実態把握のためのアンケート調査の実施

(ア)最も多くの支援割合を占める KSP（小中学生のいる就学援助世帯）世帯への調査は一昨年4月以降行っていないため、アンケート調査を実施しました。特に子どもへの調査を初めて実施しました。保護者と子どもの両面から困窮世帯に対して的確な支援策を検討する為に、必要なニーズと課題を把握することを目的としました。

8 割が食費を削り、約 3 人に 1 人が1日 300 円未満の食事代で生活。4 月 13 日に 記者発表を行い大きな反響がありました。

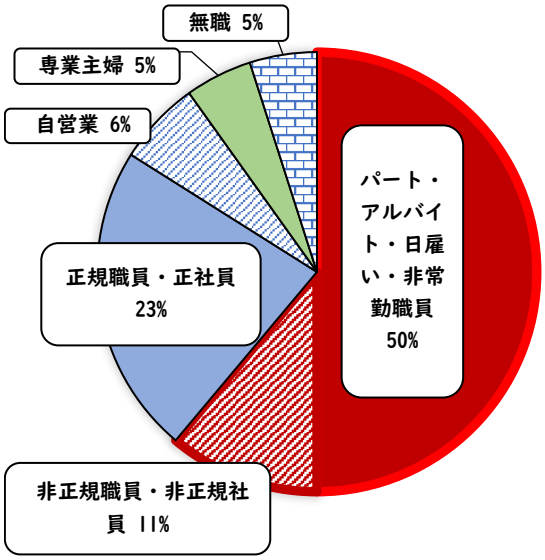
記者会見の様子

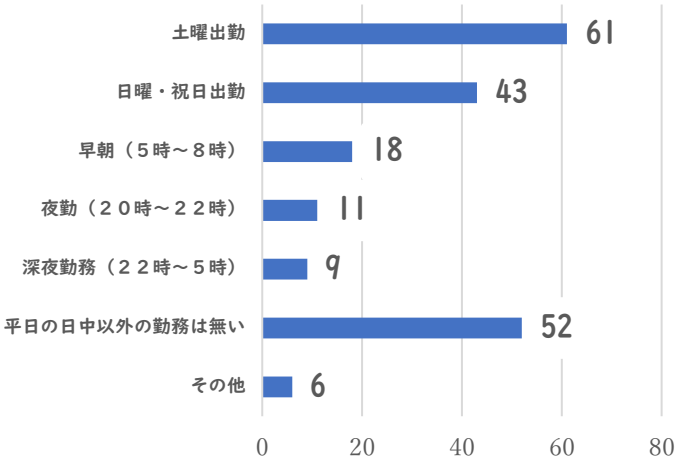
記者会見の様子②

調査結果の要点

1. 平日の日中以外にも働いていますが、貧困が改善されません

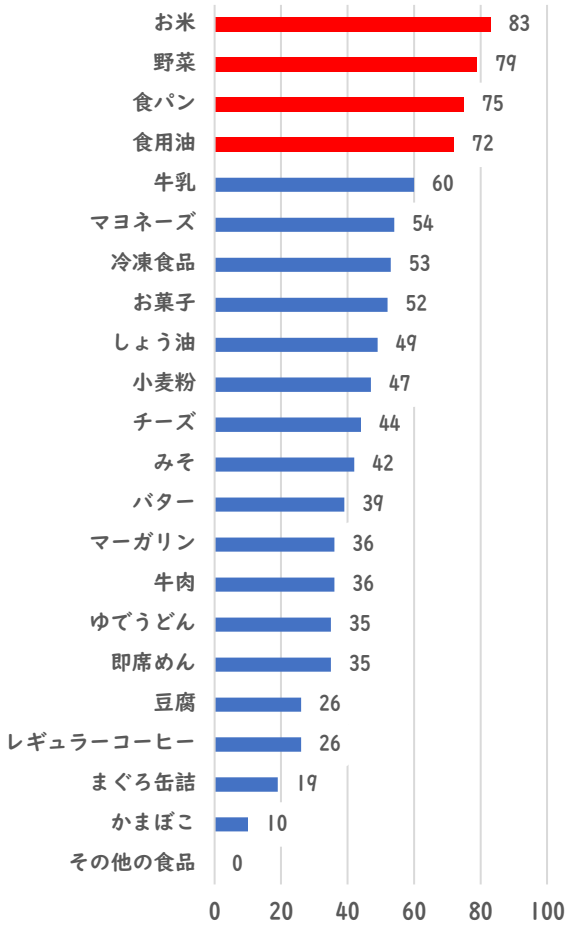
保護者アンケート調査は、対象 816 世帯に配布し、162 世帯が回答。子どもアンケート調査は、対象 1607 人に配布し、280 人から回答を得ました。家族構成は、ひとり親世帯が78%を占めています。雇用形態をみると、61%が非正規雇用であり、67%が平日の日中以外の勤務をしています。



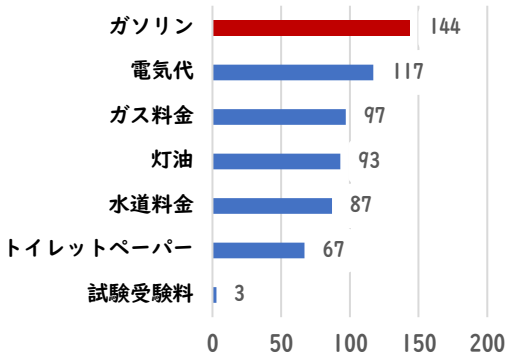


1か月間の世帯収入金額（手取り額）では、35%が 15 万円以下で生活しています。また、41%が借金をしています。2021 年 12 月現在、多くの方が食品の値上がりの影響を受けています。具体的には米、野菜、食パン、食用油や、ガソリン・光熱水費の値上げが挙がっています。

（食品：複数回答、回答数972）



（食品以外：複数回答、回答数 608）

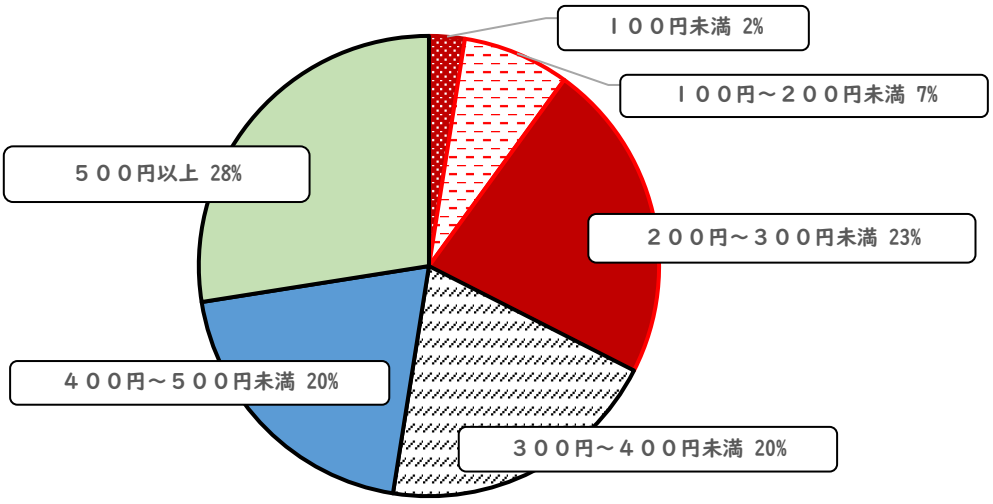


2. 物価の上昇が生活困窮世帯を直撃しています

このため、食費や回数を抑えたり、削っている現状が明かになりました。80%が節約の為に食費を削り、47%が 1 か月間 4 万円未満に食費を抑えています。過半数が食事の回数ないし量を減らし、おかずを減らした世帯は 53%と過半数を超えました。1 か月の食費から一人当たりの 1 日の食事代を算出したところ、約 3 人に1人が 300 円未満で、3 食食べるとすると、1 食あたりが 100 円ほどになる厳しい状況でした。

食事内容については、54%が「おかずが減った」、「炭水化物だけの食事が増えた」（25%）、「インスタント食品が増えた」（16%）と偏りがありました。記述では、「自分だけおかずなし、子どもたちはいつも通り」、「もやしを使ったおかずが増えた」、「ふりかけやお茶漬けが増えた」、「外食に行かなくなった」等の声がありました。

●1 人当たりの 1 日の食事代(N=160)



3. 子ども達は多くのものを剝奪されている

子どもたちは懸命に働く親を支えようと、兄弟姉妹の面倒をみたり家事を分担したり、ヤングケアラーに近い状況も散見されました。記述回答には、「小学生の男の子:おかずが少なくても、ふりかけなどで食べてくれる。ズボンの膝が破けていても繕ってあげると「平気」と言ってはいてくれる。」声が聴かれました。

物質的な不足は、洋服・文房具・部活で使用する用具などがあり、加えて経済的な理由で塾や習い事にも通わせてあげられない等、経験の不足も多くありました。

子どもの最終進路について保護者の希望をみると、74%が大学・専門学校などの高等教育機関でした。一方現実的な見方は 40%に低下しています。また 3 人ですが中卒後就職もありました。本調査の子ども達の多くが、家庭環境により将来が左右されてしまう事を示唆する内容でした。

(イ) 乳幼児のアンケート調査の実施

乳幼児を育てる世帯の厳しい現実が明らかになりました。ミルク・おむつなどが買えないことで、乳幼児期から子どもの貧困格差が生まれていることが明らかになりました。アンケート調査は、対象139世帯に配布し、72世帯から回答を得ました。

調査結果の要点

1. ひとり親世帯の厳しい経済状況

支援世帯の 69%がひとり親世帯で、その世帯の収入は 0 円～10 万円が 62%で相対的貧困層と言えます。2018 年の貧困線（等可処分所得の中央値の半分）は 127 万円。

養育費を受け取っていない世帯も 74%と多く、世帯収入の低さに繋がっています。今悩んでいることでは「お金・収入」が 57 件と一番多い。加えて、「将来の不安」「子どもの成長や教育費・子育て」など子どもの将来への心配が多かった。食料支援の継続的な実施は有効で、浮いたお金を他に使えるメリットがあります。加えて、低所得世帯への経済的な公的支援の実施が必要とされています。

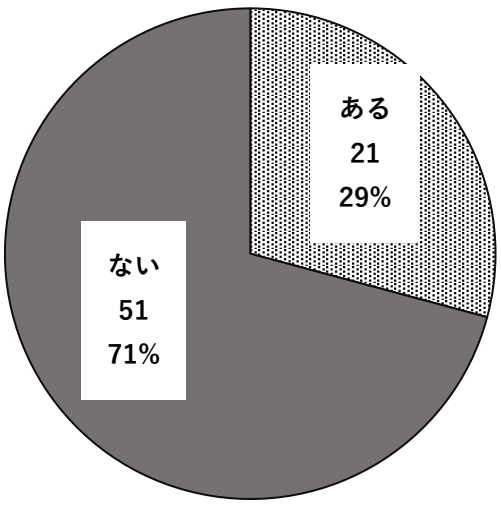
2. 基本的な人権でもある 人間らしい生活を送る権利を脅かされています。

空腹をがまんして長時間過ごす経験ある方が、「ほぼ毎日」「2～3 日に 1 日」「週に 1 日」「月に1～2 日」を合わせて 62%と、明日の食べ物にも事欠く状況がある。「ミルクやおむつが買えなかった経験がある」は 29%で、その対応では、「オムツを使いまわしたり、長時間オムツを変えなかった」など声を上げることのできない乳幼児にとっても厳しい生育状況となっています。生理の貧困への対応として、今回生理用品を配布したところ、記述回答に「大変助かった」の声が多く寄せられました。さらに生理用品を購入できず困った経験がある方も 35%で、理由には子どもの物を優先させるために購入を控えている様子が伺え、引き続き生理用品や日用品などについても支援が必要な状況です。

3. コロナ禍での生活の悪化が危惧されます。

「労働時間が減り、収入も減った」が 32 件と一番多い。更に「子どもがストレスを感じた」「子どもに強い口調で叱った」「子どもに手を挙げてしまいそいそうになった」など子どもを取り巻く環境にも悪い影響が出ていることが危惧されています。「コロナ禍で孤立・孤独を感じるようになった」42%。一方「フードバンク山梨の電話相談を利用したいか」は、希望しないが 50%と半数を占めた。「検討中」も 46%でした。積極的に「相談を希望する」は 4%にとどまっており、日本における恥の文化の影響があると思われ、今後フードバンク山梨の相談室での電話相談を促進していく必要があります。

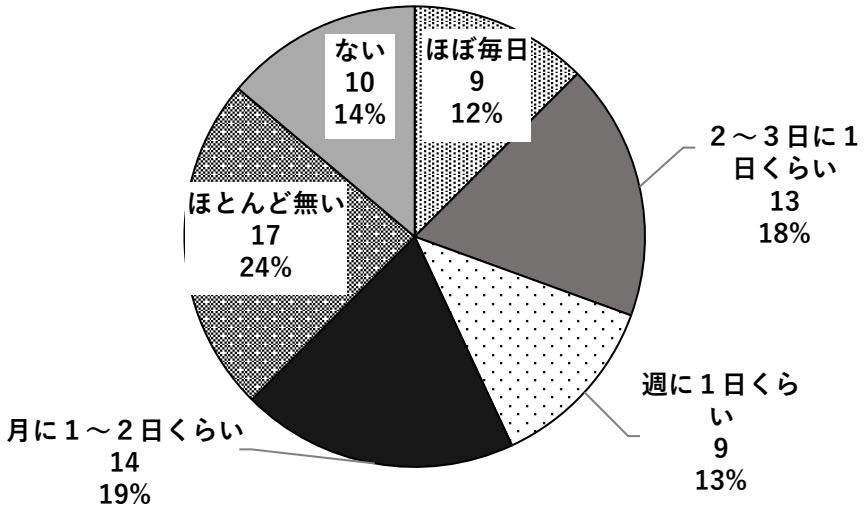
●ミルク・おむつが買えなかった経験があるか（n=72）



●ミルク・おむつが買えなかった経験「ある」の方は、どのような対応をしたか（自由回答）

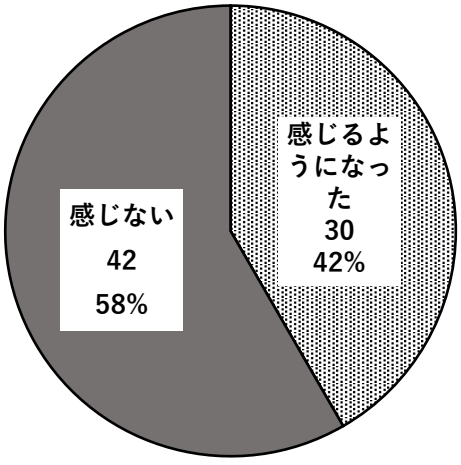
・知人に譲ってもらった
・借金をした
・ミルクから完全母乳に変えてミルク代でオムツを買った
・オムツの交換を控えた
・長時間オムツを変えなかった
・オムツ交換の頻度を減らした
・その時は、周りに相談したり、お金を少し借りて買ったりしました。
・母乳で頑張った。オムツにうんちをした時はうんちだけを取り除きそのまま穿かせた。
・牛乳を飲ませた。

●空腹をがまんして長時間過ごすことが、どの程度あるか（n=72）



「空腹を長時間がまんして過ごす」が全体として 62%

●コロナ禍で、孤立・孤独を感じるようになったか（n=72）



コロナ禍の影響で、孤立・孤独を「感じるようになった」が 42%、「感じない」が 58%であった。

利用者の声

・ミルクやオムツは、うれしくて、助かりました。日用品もありがとうございました。食品は、子がが喜んでいました。

・生理用品まで入っているとは思いませんでした。オムツ、お米だけでも嬉しいのに洗剤も入っていたり、何度か届いていますがどんどん品が良くなっているように感じました

・沢山のお品物をありがとうございました。子育てに手一杯でとても疲れている日々が続いていますが、この荷物が届いた時まるで親から贈り物が届いた時のようなとても温かい気持ちになりました。私には頼る人も親もおらず、友達もみな東京なので寂しい毎日をおくっていますが、また明日から頑張ろうと思えた贈り物でした！本当にありがとうございました！